令和８年度

学校だより
11月号

かわかみ

令和８年１０月３０日

横浜市立川上小学校
横浜市戸塚区秋葉町203－2　電話 811-9345　FAX 811-5961



正解でなくとも「最善」を選ぶ

校 長　吉川 真由美

「自分の『こうありたい』を手放さないでほしい」

常々子どもたちに語りかけている言葉です。

その「こうありたい」を叶えようとするとき、「自分で選ぶ」という営みが欠かせません。よい結果を導くために、どの方向に進むべきなのか―そのような迷いや思案は、どのような選択にも伴うものです。人は、失敗しないように、そして、自分の望んだ方向に進めるように悩むものです。

学校という空間の中で意識を研ぎ澄ませれば、教室のあちこちから、子どもたちの小さな選択の息吹が聞こえてきます。「このやり方でやってみよう」「それは違うのではないかと声をあげるべき」と、自らの思いに従って選ぶ子どもたちがいます。それが正しいのかどうか、分からないことだってあるでしょう。それでも、自分なりに考えた末、その時にそうすることが最もよいと思ったことを選ぼうとする姿があります。

校外学習に出かけた5年生もそうでした。公共の場でどのように振る舞うことがふさわしいのかを一人ひとりが考え、仲間と確かめながら行動していました。オーケストラ鑑賞では、マナーを守りながらも、演奏をどう楽しむかという正解のない場面で、音を感じるままに思い思いの姿を創り出し、その時間をより豊かなものにしようとしていました。また、愛川宿泊体験学習に出かけた4年生は、「その方がみんなで楽しく過ごせるね」と互いに語り合いながら、活動のあり方を自分たちで決めていました。

そのような姿に出会うたびに、私は思うのです。たとえ、その選択が結果として正解とは言えなかったとしても、その時その子が「これが最善だ」と信じて選んだ道を大切にしたい、と。

もちろん、選んだ道の先には成功もあれば失敗もあります。けれども、自分で選び取った経験は、自分で選んだからこそ、どのような結果になったとしても必ずその子の学びになります。うまくいった理由を知ることも、思うようにいかなかった原因を振り返ることも、次の選択を支える力になるからです。

だからこそ川上小学校は、子どもたちが迷いながらも、その時々の最善を自分で選べる学校でありたいと思っています。そして何より、その方向を真剣に選んだ「あなた」を丸ごと受け止め、その価値を認める学校でありたいと思うのです。

先の見通しが立ちにくく、正解が一つではないと言われる時代です。だからこそ必要なのは、あらかじめ用意された答えを探す力だけではなく、自分なりの価値観や願いをもとに、「今、どうすることが最もよいのか」―その時の最善を選び取る力ではないのかと考えます。その積み重ねが、きっと未来を切り拓いていくと信じています。

それは子どもたちだけではありません。学校で働く私たち大人もまた、日々の教育活動の中で幾度となく選択を重ねています。子どもたちのために何が最善かを考え、悩みながら決断しています。校長として私は、そんな教職員一人ひとりの選択も後押ししていきたいと思っています。大人が自ら考え、最善を選ぼうとする姿は、きっと子どもたちが自分の選択を信じる力につながるはずだからです。

正解でなくとも、その時の最善を選ぶ―その経験の一つ一つが、自分の人生を歩む力になっていくことでしょう。ここが、その選択を安心して重ねられる場所であり続けたいと思います。